

赤松研究室 M1 の中村遼音さん、山崎陽生さんが、2025 年度修士前期課程「特別研究Ⅰ」ポスター発表にて優秀賞を受賞しました

(令和 8 年 1 月 19 日掲載)

大学院創成科学研究科建設環境系専攻博士前期課程 1 年の中村遼音さん、山崎陽生さん（流域環境学研究室）が、2025 年度の特別研究Ⅰ（修士論文の中間審査）ポスター発表にて、優秀賞を受賞しました。



■中村遼音さん（左）

【発表題目】 「HiPPO ブロックを導入した RNN による河川水位予測モデルの開発」

【概要】 中村さんは、新たな時系列モデリング手法である HiPPO と深層学習モデルである RNN を組み合わせた水位予測モデルを作成し、その有用性を検証しました。

【受賞コメント】 「身に余る賞をいただき、大変光栄です。本研究を通じ、HiPPO の特性を明らかにすると共に、深層学習における教師データやパラメータの扱いの重

要性を認識することができました。研究にご助力をいただいた先生方のおかげで本受賞を受けることができたと考えております。ご指導いただいた先生方をはじめ、支えてくださった関係者の皆様に心より感謝申し上げます。」

■山崎陽生さん（右）

【発表題目】 「環境 DNA を用いたアユの生息適地評価手法の高精度化に関する検討」

【概要】 山崎さんは、佐波川を対象に、環境 DNA 分析と数値シミュレーションを組み合わせることで、アユの生息適地評価手法の高精度化に関する検討を行いました。

【受賞コメント】 「この度は光栄な賞をいただき、身の引き締まる思いです。本研究を通じ、漠然とした生物の動きを、環境要因との統計解析によって定量的に示せたことに大きな意義を感じています。熱心にご指導くださった先生方や、研究を支えてくださった皆様に深く感謝いたします。」